



埼玉県マスコット
「コバトン」

令和2年産（令和元年播種） 麦類の生育概況 vol.3



（令和2年2月1日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要約

- ◎気象概況：1月の気温はかなり高く、降水量は第6半旬にまとまった降雨があり月合計は多く、日照時間は少なかった。
- ◎生育状況：生育量は大きく、生育進度はかなり早い。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・追肥：これまでの高温による生育の進展と降雨から肥料の不足が懸念される。生育と麦種に合わせた追肥を実施する。
 - ・排水対策：排水機能を保つよう明きょと排水溝の点検補修を行う。
 - ・雑草防除：雑草が発生しやすい条件のため、雑草の発生が見られるほ場では、雑草の種類と葉齢を確認した後、適期に防除を行う。
 - ・踏圧(麦踏み)：茎立ちがかなり早まると予想されるため、必ず踏圧前に茎立ちしていないことを確認して、茎立ちまでに10日～2週間間隔で2回程度を目標に実施する。

1 気象の概況

1月の平均気温は全半旬で平年より高く、月平均では2.4℃高かった。降水量は、第6半旬にまとまった降雨があり、月合計で平年比228%であった。日照時間は、月全体を通して平年より少なく、月合計では平年比87%であった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 小麦（さとのそら）

高温で推移し土壌水分も多いため生育が促進され、草丈・茎数・葉位ともに平年を大きく上回っている。反面、風乾歩合が平年より低く軟弱傾向になっている。1月31日調査時点で稈長0.3cm、幼穂のステージはVI期であった（平年値0.2cm・V期）。秋播性の影響を排除するため、第VI期からの積算気温で茎立期を予測したところ、茎立期は3月第1半旬頃となる見込みであり、平年（3月13日）より10日程度早い予想となった。

イ 大麦（彩の星）

高温で推移し土壌水分も多いため生育が促進され、草丈・茎数・葉位ともに平年を上回っている。播種から平年より高温で推移しており、1月31日調査時点で稈長1.2cm、幼穂のステージはX期であった（平年値0.3cm・VIII

期)。2月も平年より高温になると予想されているため、莖立期は2月9日前後となる見込みであり、平年（3月2日）より20日程度早い予想である。

（2）県内全般

高温に推移し、土壌水分も十分あることから、適期に播種されたほ場ではセンター内同様、生育が前進化し生育量も多い。一方、播種が遅くなったほ場も多いことから、県内全体での麦類の生育には大きなばらつきがある。11月下旬の降雨による湿害により苗立ちが劣るほ場も一部みられる。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が1月30日に発表した1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なく、平均気温は高い確率70%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%である。

また、1月24日発表の3か月予報では、3月、4月とも天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。気温は、平年並または高い確率ともに40%である。

（2）生育予測

今後も気温が高いことから、小麦、大麦ともに生育は促進され、過繁茂な状態になると思われる。このため、特に11月中旬までに播種されたものは、莖立期の大幅な前進化や過剰生育による生育後半の凋落、寒のもどりによる凍霜害が想定される。一方、晩播ほ場では生育遅れがある程度回復すると考えられる。

4 今後取るべき技術対策

（1）追肥

小麦は追肥体系の場合、「さとのそら」は出穂2週間前（平年4月初頭）に窒素成分で3~4kg/10aを目安に施用する。但し、莖立ち後の機械散布が困難な場合は、莖立直前（平年3月上中旬）に実施する。「あやひかり」は窒素成分で2kg/10a（平年2月下旬から3月上旬）を施用する。

ビール麦は、前年産のタンパク質含量分析結果から施用時期及び施用量を調整する。高タンパク質の指摘があった場合は窒素成分で1.5~2kg/10a（平年2月上旬）、低タンパク質の場合は窒素成分で2kg/10a（平年2月下旬）を目安に施用する。

六条大麦は、窒素成分で1.5~2kg/10a（平年2月中下旬）程度施用する。

本年は気温が高く、生育がかなり前進化していることから、莖立期が早まる予想であり、上記の平年の目安より作業の前倒しが必要となるほ場も多いと考

えられる。早めに準備してほ場をよく観察し生育状況に応じた適期施肥を心がける。また、11月上中旬播種の麦類は、肥料成分の消費や流亡が考えられるため、積極的に追肥を行う。

(2) 排水作業

近年まとまった降雨や降雪が多いことから、排水溝の不備は湿害を招きやすい。麦踏み等で明きょが埋もれていないか、外部の排水路と連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

(3) 雑草防除

高温で土壌水分が十分あるため、雑草が発生しやすくなっている。この時期は雑草が赤紫色を呈し、土壌と識別しにくいことから、発生始期を見逃してしまうことや、雑草の草丈が伸びずに葉齢が進んでしまうため、薬剤の効果が高い使用時期を過ぎてしまう可能性がある。雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さぬよう確実に除草剤散布を行う。

(4) 麦踏み

麦踏みには「根張りを良くする」、「伸びすぎを抑えて過繁茂を防ぐ」、「無効茎を淘汰し、強い有効茎を確保する」などの効果がある。莖立期までに10日～2週間の間隔を空け、2回程度を目標に実施する。

ただし、今年は高温のため播種期によっては莖立期間近のものがある。莖立期後の麦踏みは減収や2段穂の発生などにつながることもあるため、必ず莖立期前であることを確認して麦踏みを行う。また、土壌水分が高くローラーに土がつくような場合には麦踏みは行わない。

解析・考察に用いた具体的数字

1 1月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	5.9	4.4	11.8	10.0	1.3	-0.3	0.0	3.5	44.0	34.1
2	6.6	4.2	11.8	9.6	2.2	-0.5	4.5	3.9	30.5	33.6
3	6.6	4.0	11.5	9.4	2.2	-0.6	2.0	5.1	26.4	33.2
4	5.7	3.9	11.1	9.2	0.6	-0.7	0.0	6.0	32.4	33.0
5	6.0	3.8	10.9	9.2	1.6	-0.8	1.0	6.5	21.7	33.7
6	7.3	3.9	11.7	9.3	3.3	-0.8	66.5	7.5	28.7	42.4
平均	6.4	4.0	11.5	9.4	1.9	-0.6	合計 74.0	32.5	183.7	210.0

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値

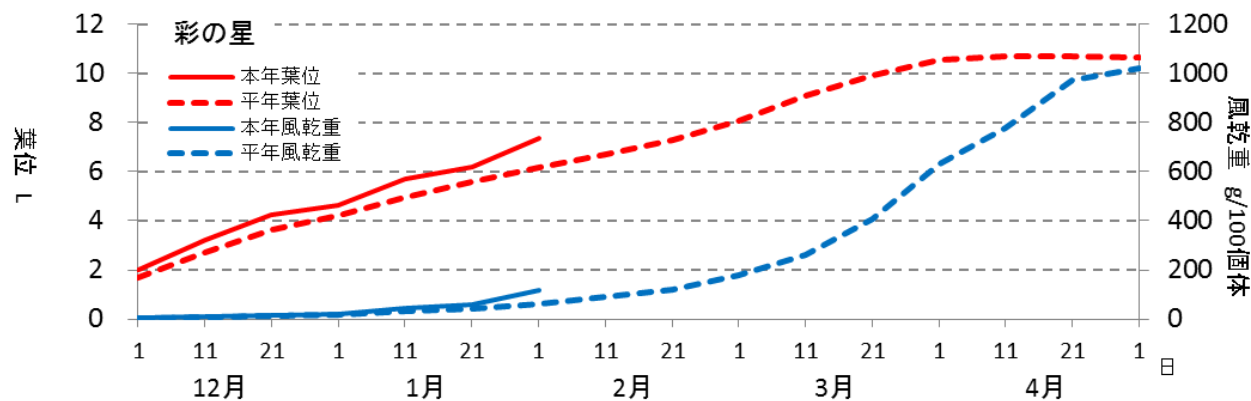
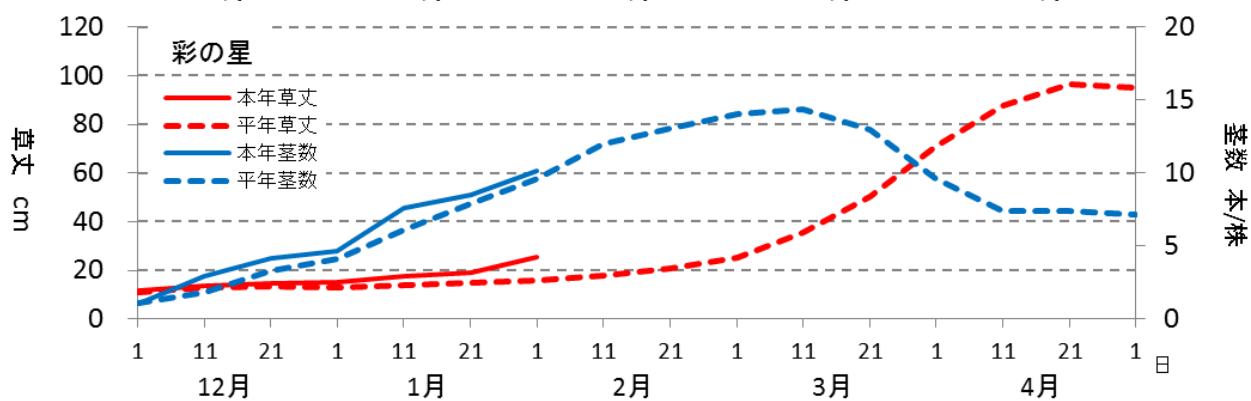
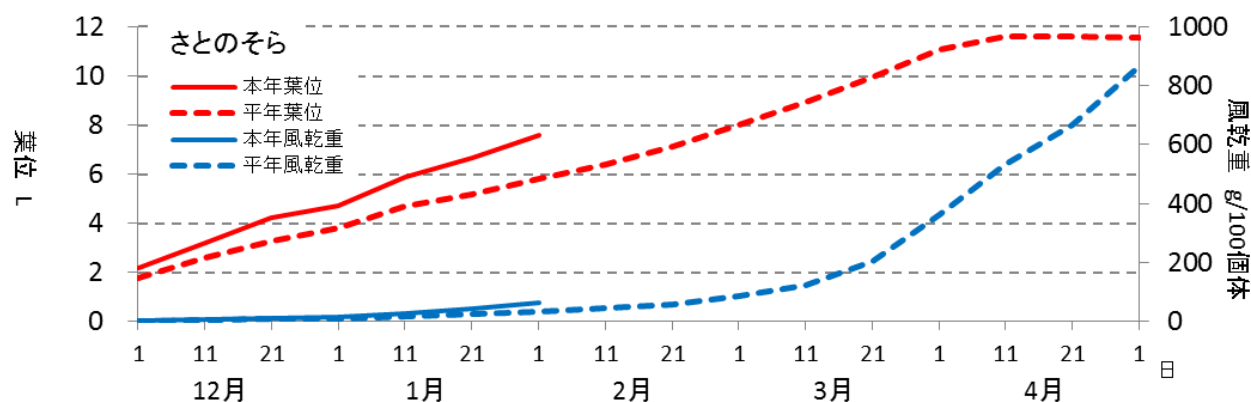
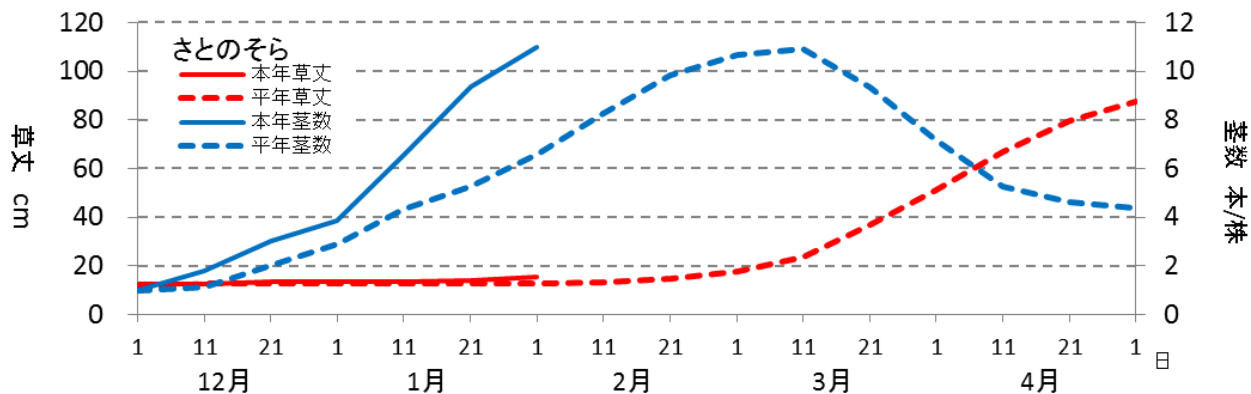
2 生育状況

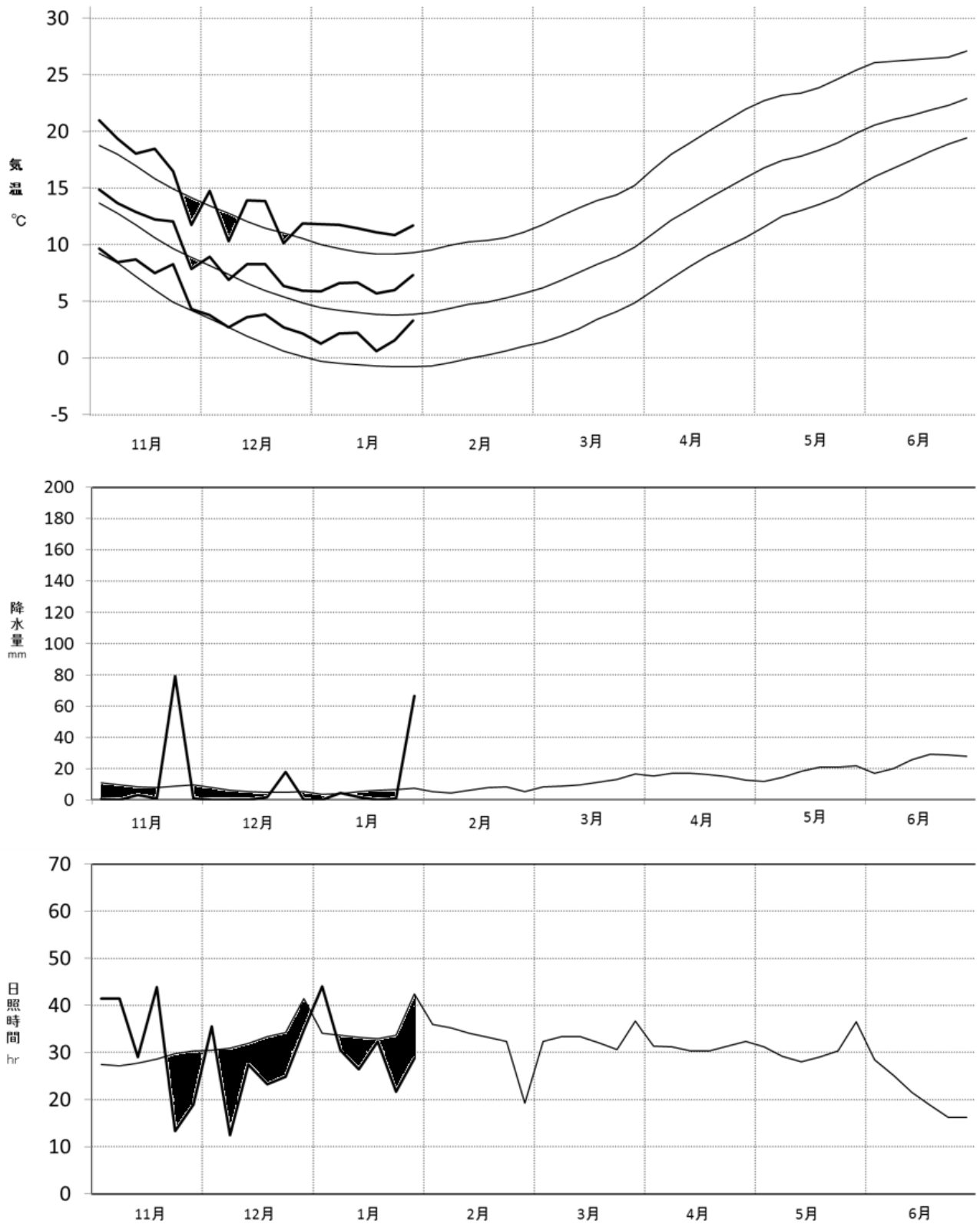
品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差
さとのそら	1月11日	13.5	108	6.6	151	5.9	1.2	29.1	160	21.6	-2.1
	1月21日	14.1	111	9.4	178	6.7	1.5	43.9	179	20.7	-3.0
	1月31日	15.6	122	11.0	166	7.6	1.8	65.6	200	19.3	-4.0
彩の星	1月11日	17.5	128	7.6	126	5.7	0.7	45.6	151	15.2	-1.2
	1月21日	19.0	130	8.5	108	6.2	0.6	58.4	134	16.1	-0.5
	1月31日	25.2	159	10.1	105	7.3	1.2	117.4	191	15.9	-0.6

注1.さとのそら平年値は、過去6年間の平均値。□ 彩の星平年値は過去8年間の平均値。以下同様。

注2.風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

3 生育経過





令和元年冬作期間気象図（熊谷地方気象台測定値）